

第62回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

〈政治・経済分野〉

荒廃農村地域の再生に生涯をかけた 「二宮尊徳」の信念と信仰

講師： 京都大学名誉教授 鎌田東二 先生

【講演要旨】 二宮金次郎（1787 - 1856）は「災害の子」である。天明大飢饉の渦中に生れ、天保大飢饉を生き抜き、安政3年に死去した。子供の頃、酒匂川（神奈川県小田原市を流れる）の氾濫で家と田畑を失い、14歳で父親、16歳で母親を亡くし、一家離散の憂き目を見た。だが、その困窮の中で、家を復興し、村（栢山村）を復興し、藩（小田原藩）を復興し、幕府領の復興をも果たした。ある夏前に茄子の味が秋の味になっているので、その夏が冷夏となることを予知し、粟や稗を植えて備えをしたら、天保の大飢饉となった。茄子の味一つで天保の大飢饉を予知し、適切な対策を講じて被害を最小に食い止め、小田原藩では餓死者を一人も出さなかったという。その鋭い観察と経験によって正確に災害や災難（天災・人災）を予測し、それに明確な対策を立てて実行に移し、人々の苦難を救った。その二宮尊徳の人生と行動と信仰は未来へのさまざまなヒントとメッセージを秘めている。

【講師紹介】 1951年、徳島県生れ。國學院大學大学院文学研究科博士課程神道学専攻単位取得満期退学。岡山大学大学院医歯学総合研究科博士課程社会環境生命科学専攻単位取得退学。現在、上智大学グリーンケア研究所特任教授。京都大学名誉教授。放送大学客員教授。博士（文学・筑波大学）。宗教哲学・民俗学・日本思想史・比較文明学専攻。石笛・横笛・法螺貝奏者。神道ソングライター。フリーランス神主。著書『神界のフィールドワーク』（青弓社）『聖地感覚』（角川ソフィア文庫）『神と仏の精神史』『現代神道論』『世直しの思想』『天河大辨財天社の宇宙～神道の未来へ』（ともに春秋社）『神道とは何か』『日本人は死んだらどこへ行くのか』（ともにPHP新書）『世阿弥』『言霊の思想』（ともに青土社）、最近著は第一詩集『常世の時軸』（思潮社）。

【参考図書】 ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

内村鑑三『代表的日本人』岩波文庫、1995年

小林惟司『二宮尊徳一財の生命は徳を生かすにあり』ミネルヴァ日本評伝選、ミネルヴァ書房、2009年
日本思想大系 52 二宮尊徳・大原幽学』岩波書店、1973年

日時： 2018年8月27日（月） 18:00～ 20:30

会場： 公益財団法人国際高等研究所

参加費： 2,000円（交流・懇談会費用を含む）

定員： 40名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 高等研のHPからお申込みください

<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切： 2018年8月24日（金）

問い合わせ先： 国際高等研究所 ゲーテの会事務局

TEL：0774-73-4000 E-mail：goethe0828@iias.or.jp

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

